

事業コード	H16-建-新-3			区 分	国庫補助・県単独
事業名	地方道路交付金事業			部 局 名	建設交通部
事業種別	1次改築(現道拡幅)			課室班名	道路建設課 調整・企画班 (tel)2483
路線名等	一般県道 耳取後三年停車場線			担当課長名	佐藤 紀一
箇所名	横手市 余目			担当者名	主幹兼班長 加賀屋建一
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	4	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備	
	目標コード	2	施策目標名	県道の整備促進	

## 1. 事業の概要

事業期間	H17～H22(6年)	総事業費	10.5億円	国庫補助率	5.5/10		
事業規模	延長L=700m、幅員(構成)W=6.0(11.0)m (1.25-3.0-3.0-1.25-2.5)m						
事業の立案に至る背景	当該路線は、横手市北部及び仙南村南部の沿線集落の日常生活を支える重要な路線であるが、通学路であるにもかかわらず、幅員狭小で歩道もないため、通学児童の安全が確保されていない。また大戸川橋は設計荷重14tの橋梁であり、大型車の通行には危険な構造となっている。地域住民の安全確保と老朽橋架替を早急に図るべく、新規箇所として要望するものである。						
事業目的	<p>【主たる目的】 通学路における歩道未整備箇所の解消(安全な生活環境の確保) 歩道なし</p> <p>【その他】 大型車のすれ違い困難箇所の解消(地域づくりの支援) 車道幅員3.0m 未改良区間の解消(道路の防災対策・危機管理の充実) 路肩幅員0.5m 架替の必要のある老朽橋(道路の防災対策・危機管理の充実) 架設後34年、設計荷重14t</p>						
事業費内訳 事業内容	(単位:千円)						
		全体	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度以降	
事業費内訳 事業内容	事業費	1,050,000	50,000	100,000	300,000	600,000	
	経費内訳	工事費	700,000			100,000	600,000
		用補費	300,000		100,000	200,000	
		その他	50,000	50,000			
	財源内訳	国庫補助	577,500	27,500	55,000	165,000	330,000
		県債	447,000	21,000	42,000	128,000	256,000
		その他					
一般財源	25,500	1,500	3,000	7,000	14,000		
事業内容		詳細設計	用地補償費	用地補償費 橋梁工	橋梁工 改良工		
調査経緯	平成10年度 概略設計 平成15年度 予備設計						
上位計画での位置付け	総合計画における施策「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業						
関連プロジェクト等	6市町村合併協議会(法定合併協議会 H16・1・13発足)						
事業を取り巻く情勢の変化	幅員狭小、歩道なしのため、児童が通学する際、危険な状態が続いている。						
事業効果把握の手法	指標名	路線改良率		データ等の出典	道路現況調書		
	指標の種類	成果指標 (業績指標)					
	指標式	改良率(改良済延長/路線実延長)					
	目標値a	67.5%(秋田県)					
	実績値b	57.1%(耳取後三年停車場線)					
達成率b/a	84.6%		把握の時期	平成16年4月			

2. 所管課の1次評価

(横手市余目 地区)

観 点	評価の内容(特記事項)	評価点
必 要 性	通学路指定の路線であり、他に機能が競合する路線は存在しない。また、代替手段もなく、手段は妥当である。	38点
緊 急 性	通学路であるにもかかわらず、幅員狭小で歩道もなく、通学児童が常に危険にさらされているなど、生活道路としての機能を果たしていないうえ、大戸川橋の耐荷力が不足しているため、平成17年度に事業着手する必要がある。	11点
有 効 性	安全な生活環境の確保 地域づくりの支援 道路の防災対策・危機管理の充実 W=3.0(4.0)mから6.0(11.0)mへの改良 歩道なし 2.5m 車道3.0m 6.0m 路肩0.5m 1.25m 橋梁14t 25t	10点
効 率 性	事業の費用便益比は1.0以上あり効率性は高い。 ・総費用の現在価値9億円 ・総便益の現在価値11.5億円	13点
熟 度	横手市から、早期整備に関する要望書が県に提出されている。道路に関するアンケート調査から、狭い道路の改良整備要望が多数寄せられている。	15点
判 定	ランク ( ○ ) 判定ランク であり、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきと考える。	87点
総合評価	選定 改善して選定 保留 各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、事業を実施すべきと考える。	

3. 総合政策課長の2次評価

4. 財政課長意見

総合評価	選定 改善して選定 保留 通学路であるにもかかわらず、幅員狭小で歩道も未整備なため通学児童などの安全が十分確保されていない状況にある。このため、現道拡幅と合わせ、歩道を整備しようとするものであること、当該区間の前後は既に道路改良済みであること、さらには市町村合併にも資することなどから、事業実施は妥当と考える。	意見内容	選定 改善して選定 保留 生活路線、通学道路であり、幅員狭小で歩道がないため、住民の安全確保を図る必要がある。 橋梁は普通車も交差できない状況にあり、前後の区間も改良済みであることから、事業の実施は妥当なものと考えらる。
------	--	------	--

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定 改善して選定 保留 事業実施は妥当である。
------	-----------------------------

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該箇所を国に新規要望する。</li> <li>・事業実施に当たっては、コスト縮減に努める。</li> </ul>
---

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価および対応方針を可とする。
-------------------

別表6 (17)

## 公共事業箇所評価基準

評価種別 (新規箇所) ・ 継続箇所 事業コード (H16 - 建 - 新 - 3 ) 箇所名 ( 横手市 余目 )

適用事業名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

## 1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員 < 5.5m ・最小半径 < 100m ・最急勾配 > 5% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上	(25)		25
		2箇所	20		
		1箇所	15		
		0箇所以上	0		
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度 1.0 ・現道の旅行速度 30km/h ・現道の事故率 50件 ・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故が発生	5件該当	15		13
		4件該当	14		
		3件該当	(13)		
		2件該当	12		
1件該当		10			
該当項目なし		0			
計		40		38	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり	4		0
		なし	(0)		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	(3)		3
		位置づけなし	0		
	交通量	増加している	(3)		3
		増加していない	0		
	特有の課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	あり	(5)		5
		なし	0		
計		15		11	
有効性	道路の位置づけ				
	緊急輸送道路及び生活圏30分 形成道路等	該当する	5		0
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	(5)		5
		該当しない	0		
	地域防災計画画上重要な道路	該当する	(5)		5
該当しない		0			
計		15		10	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.0以上	(8)		B/C = 1.28
		0.5以上~1.0未満	6		
		0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	7		T42 = 854台/日
		500台/日以上~1,000台/日/未満	(5)		
300台/日以上~500台/日/未満		3			
300台/日未満		0			
計		15		13	
塾度	地元の状況				
	地元ニーズ	文書要望あり	(5)		5
		口頭要望あり	3		
		要望なし	0		
	地元の協力体制	地元の内諾	(5)		5
		用地反対	0		
	地元への方針説明	あり	(5)		5
なし		0			
計		15		15	
合計			100	87	

## 2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
○	優先度がかなり高い	80点以上	87	判定ランク であり、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきと考える。
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		